

第 13 回 長野広域連合ごみ処理施設整備計画等専門委員会 議事録

[日 時] 平成 24 年 6 月 19 日 (火) 13:30～16:40

[会 場] 東京ステーションコンファレンス

[出席者]	専門委員	6 名
	長野広域連合	7 名
	千曲市	1 名
	(一財)日本環境衛生センター	1 名
	(株)エイト日本技術開発	2 名(前半)
	八千代エンジニアリング(株)	3 名(後半)

委員会議事録概要

(1) 第 12 回委員会議事録の承認

議事録について承認された。

(2) 専門委員会での課題及びスケジュールについて

事務局から、専門委員会では今後協議する内容とスケジュールについて説明した。

(3) A 焼却施設 管理運営等調査検討報告書(案)について

A 焼却施設の管理運営に関する事業性評価と事業実施における課題を中心に説明し、協議した。

<委員意見等>

- ・性能発注方式は性能機能を業者が保証する形になっている。瑕疵担保は設計の瑕疵担保と施工の瑕疵担保があり、一般的に施工の瑕疵は 3 年、設計の瑕疵担保は設計そのものが間違っ性能機能が發揮されない場合の瑕疵で、重大な過失があった場合の瑕疵を適用して 10 年としている。
- ・公設長期包括委託方式では非メーカー系の運営事業者の参入機会が与えられるとしているが、現実的には考えにくい。
- ・DBO 方式は、かなり設計と運営に自由度を与えるものと、従来の発注方式と同様に施設のスペックを示すものがある。どちらを前提にするかを決める必要がある。
- ・事業性シミュレーションにおいて、もう少しわかりやすい区分けにすべき。
- ・VFM の数値については、せいぜい小数第 2 位を四捨五入するぐらいだと思う。
- ・発電収入や溶融スラグの利活用について、明確なリスク分担を判断すべき。
- ・公設民営の場合、要求水準書で施設や機能のモニタリングを事業者側に求めているが、行政側でも客観性を担保する方法を考えなければいけない。

(4) B焼却施設 基本計画(案)について

B焼却施設の施設整備基本計画、施設配置計画、事業実施に向けた課題を中心に説明し、協議した。

<委員意見等>

- ・悪臭については環境アセスと整合性を図るようにする。
- ・公共下水道の排水基準が古いので、新しい排水基準に訂正する。
- ・A施設とB施設の書きぶり、トーンをある程度統一する必要がある。

(5) 報告事項

最終処分場の地形計測、生活環境影響調査の調査時期と内容について報告した。